

市民協働推進補助金交付事業 2024年度活動報告



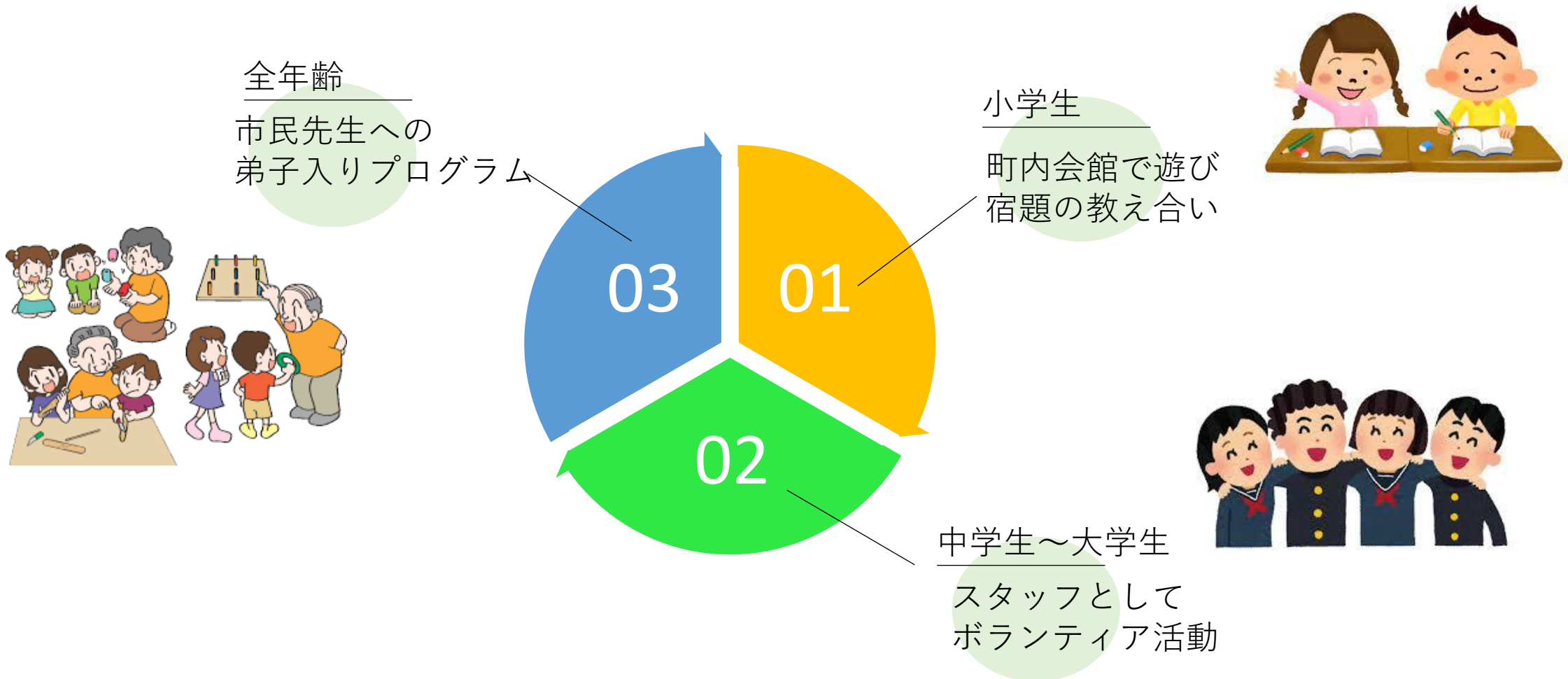
NPO法人 くれば

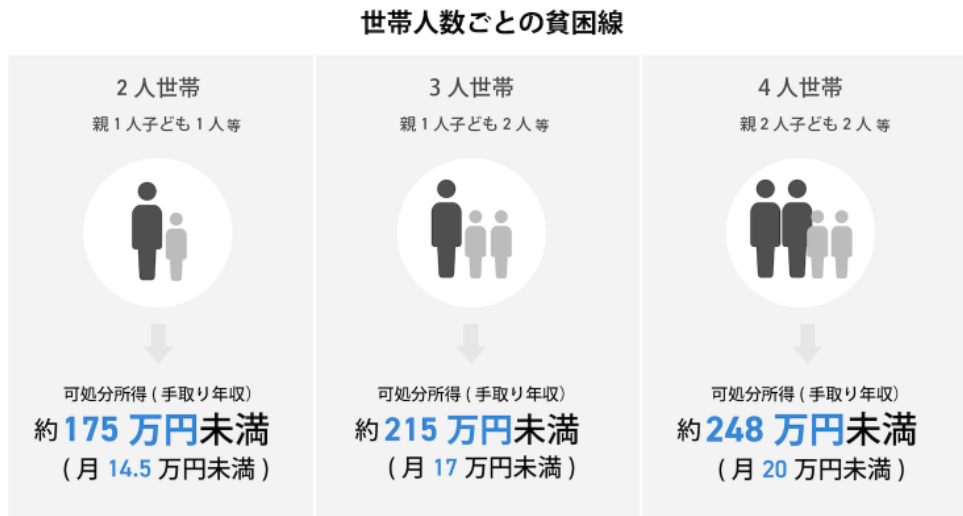
目次

1. 事業の内容
2. 現状認識と課題
3. 事業1 小学生の居場所づくり
4. 事業2 市民先生への弟子入りプログラム
5. 2024年度の工夫
6. 活動の様子
7. 2024年度の課題達成度

事業の内容

こどもの居場所をつくり、そこを地域の人々のやさしさが集まる場所とする





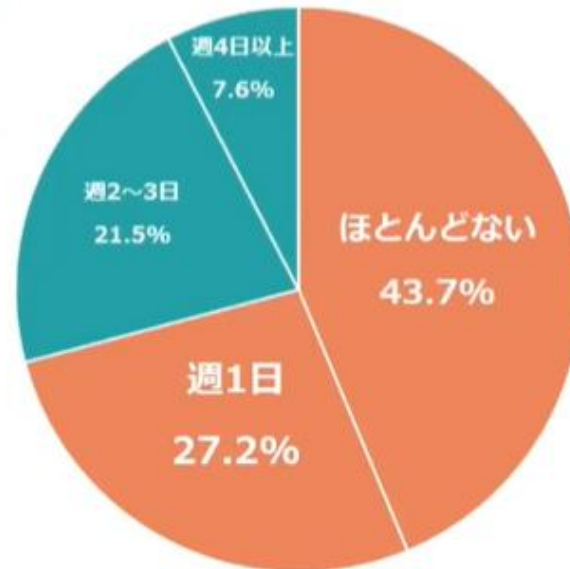
現状認識と課題

Q.放課後にどれくらい友達と遊んでいますか？

放課後NPOアフタースクール独自調査「小学生の放課後の過ごし方調査レポート（2023年11月14日発表）」より

週1回以下が70.9%（「ほとんどない（43.7%）」「週1回（27.2%）」）

放課後にどれくらい友達と遊んでいますか？（n=302）



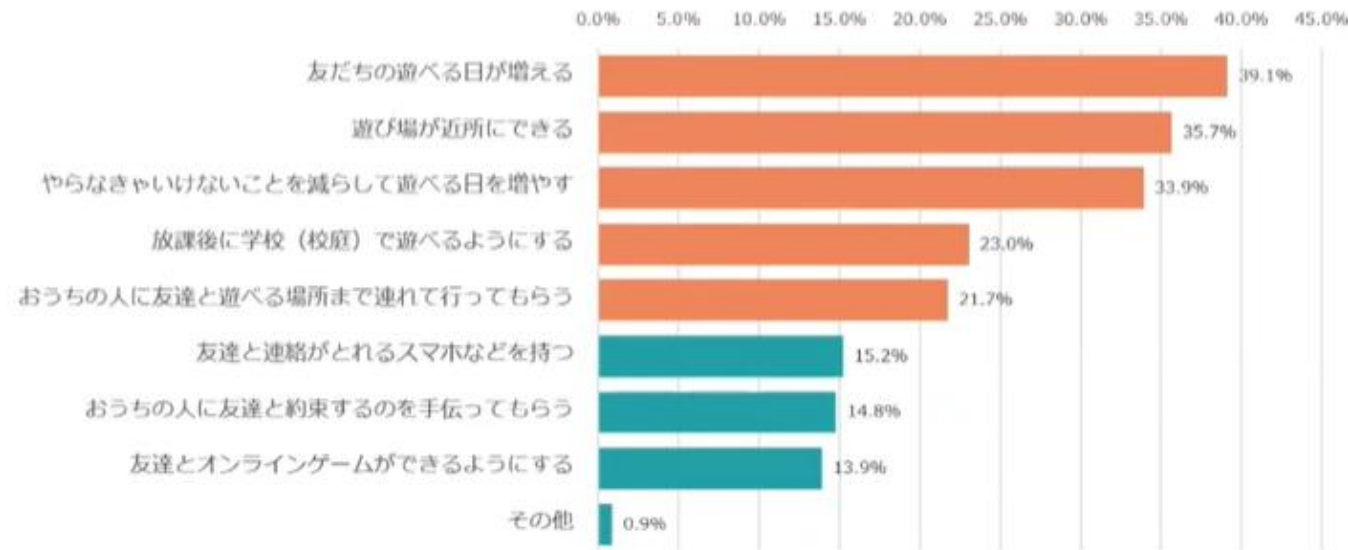
現状認識と課題

Q.どうしたらもっと友達と遊べるようになりますか？

放課後NPOアフタースクール独自調査「小学生の放課後の過ごし方調査レポート（2023年11月14日発表）」より

「友達の遊べる日が増える（39.1%）」「遊び場が近所にできる（35.7%）」
「やらなきゃいけないことを減らす（33.9%）」「放課後に学校で遊べるようにする（23.0%）」

もっと友達と遊べるようになるには、どうなるといいと思いますか？（n=230）



事業1



小学生の居場所づくり

小学生の居場所づくり

<概要>

地域の町内会館を利用し、週1回、こどもたちが主体的に遊べる場所を用意する。

学生や地域の方に、スタッフや遊び相手として集まってもらう。

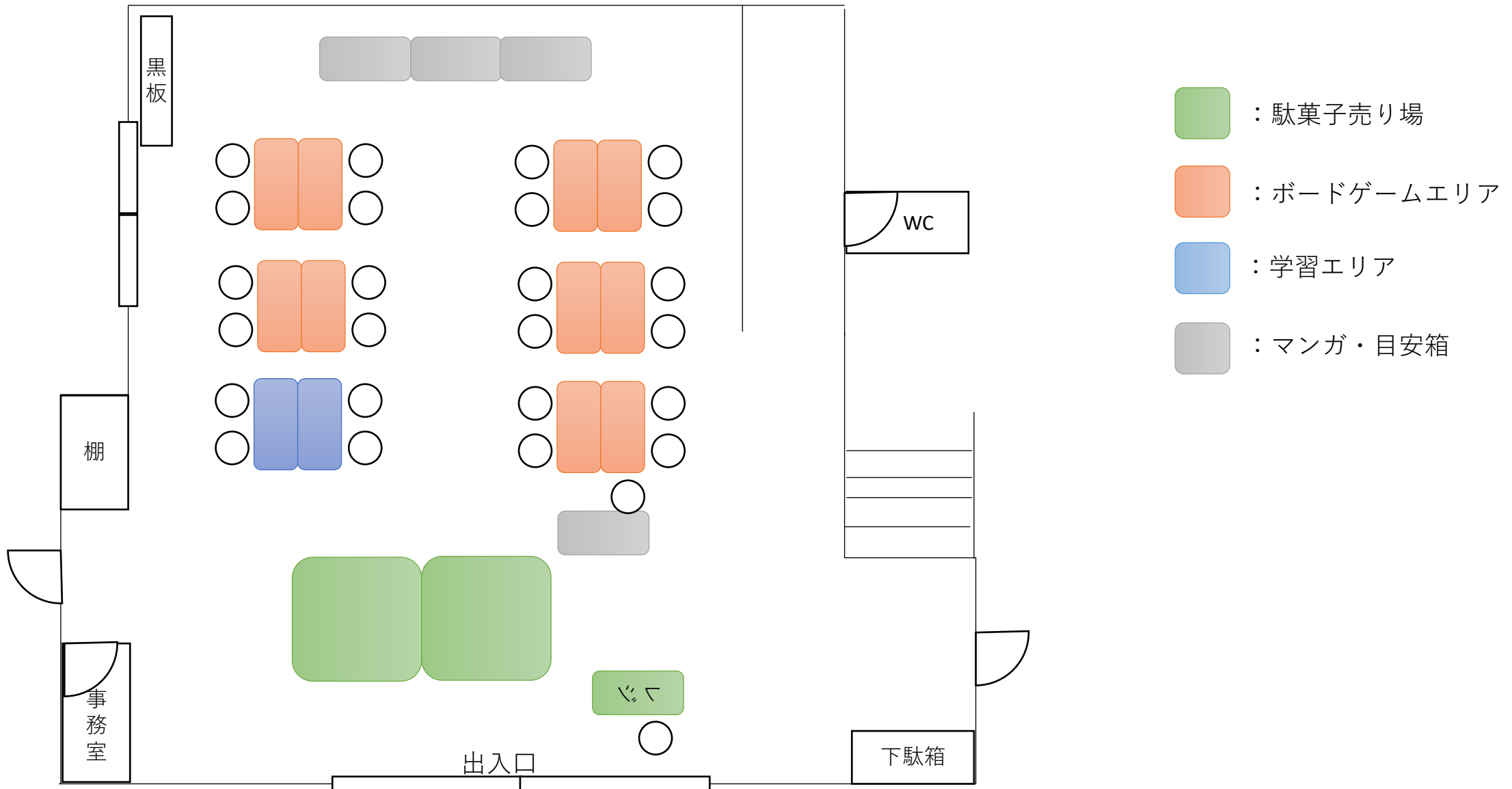
<目的・効果>

地域に繋がりと活気が増し、安心して暮らせる街になる。

家族や先生以外に悩みを相談できる大人が増える。

宿題の教え合いを通して学力が向上する

小学生の居場所づくり

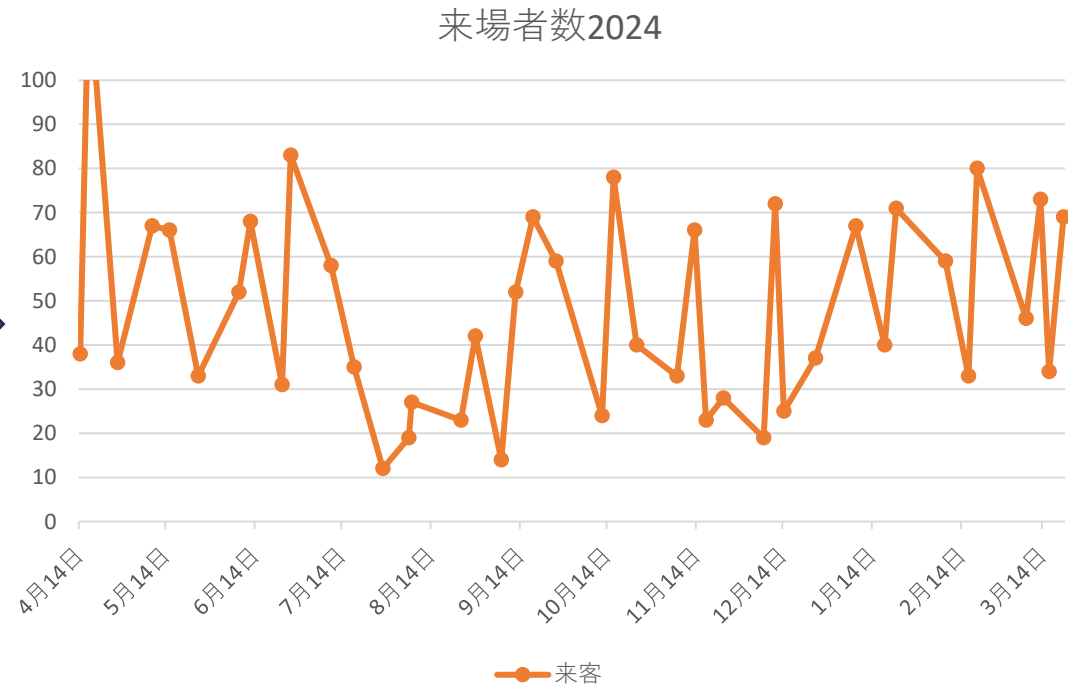
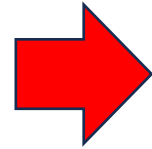


小学生の居場所づくり 2024年度実績

• 2024年度来店者数・遊び場利用者数



年間約900人



年間約2,000人

事業2

市民先生への弟子入りプログラム

市民先生への弟子入りプログラム

＜概要＞

市民から講師を募り、小学生向けの体験講座を開く。

＜目的・効果＞

体験を通して様々なことに興味をもつきっかけをつくり、学業やスポーツだけにこだわらず、自分自身のゴールを見つける手助けをする

シニアの方や、新しいことを始めたい市民に、市民先生としての機会を提供する

市民先生プログラム 2024年度実績



2024年度の工夫①

- ・タイピング練習、タブレットゲーム



学年ごとに
「〇〇点とれたらガチャ1回」
というミッションを用意しており、
家で練習してくる子もいる

2024年度の工夫②

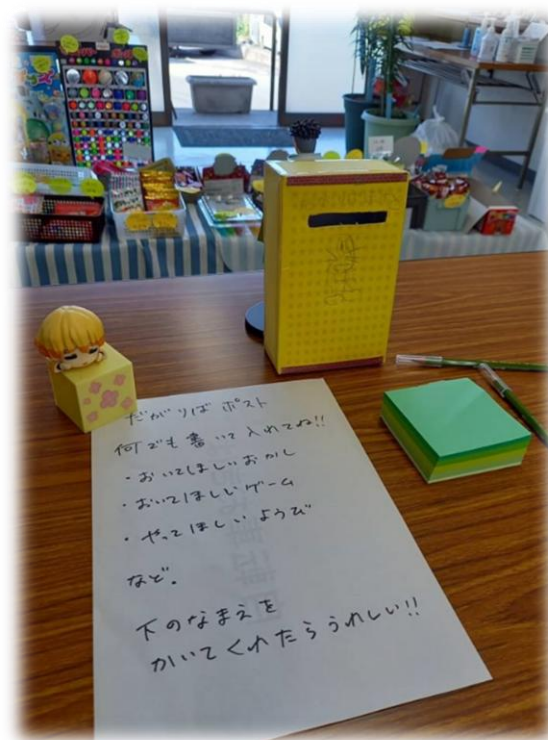
- ・ 高校生ボランティアの活用



活動のようす①

会場に目安箱を設置したところ、こどもたちから遊び道具や駄菓子のリクエスト、かけてほしい音楽、開催してほしい曜日など、たくさんの意見をもらうことができている（2年間で100件超）。

→子供たち目線での
居場所づくりが進められている



活動のようす②

毎回来てくれる子や、学校帰りにちょっかいだけ出す子、外遊びの待ち合わせ場所にする子、中学生になってからもたまに顔を出しに来る子など、利用の仕方は様々。良い意味でまちに馴染んできた。

→**こどもたちの居場所の1つになっていることを実感している**



活動のようす③

レジが忙しい時に上級生のこどもが積極的に手伝ってくれたり、下級生の面倒をみてくれたりしている。

→大人にとっては、こどもたちの優しさや頼もしさを感じられる場になっている



2024年度の課題達成度①

1. 町内からの活動に対する理解を得る

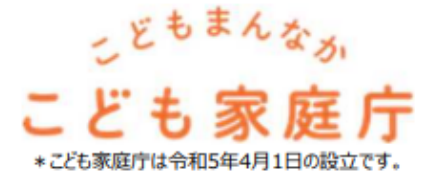
- ・町内のお祭りなど行事の手伝いに積極的に参加し、キーパーソンたちに顔が知れてきた
- ・町内会の会合でプレゼンをしたり、役員の方と相談をする機会をいただくことができた。
- ・活動の継続について賛同してくれた方のおかげで、2025年度は無料で町内会館を使用できそう。

2024年度の課題達成度②

2. 若者(中学生～大学生)が参加したくなるような仕組みづくり
→ 高校生ボランティアが年間10回活動に参加してくれた。この流れを絶やさず、こどもたちが「大きくなったら手伝いにきたい」と思ってくれたらうれしい。
3. スポンサーを見つける、お金が回る仕組みをつくる
→ 寄付に頼らない方法も含め検討中

最後に

令和5年4月1日に**内閣府こども家庭庁**が設立されました。
こどもの居場所づくりにおいて大切にしたい視点として、
「**居たい・行きたい・やってみたい**」の3つが挙げられています。



このような場所となることを目指し
こどもの声を大事にしながら、
今年度も事業を継続していきたいと思いをします。





活動報告は以上になります。
ご清聴ありがとうございました。